

● 6月18日(木) 快晴 オロフレ山(1230.7m)

- 朝4時半に目が覚め5時に起床。外はどんよりと暗くて寒い。何しろ風が冷たくて外にいられない。外気温15℃だ。きょうはオロフレ山に登る予定。天気予報ではオロフレ山方面の天気は良さそうだ。とにかく行って見よう。車の中で朝食を済ませ、7時に道の駅「みたら室蘭」を出発した。
- ・ 登別温泉を通過してオロフレ峠へ近付くにつれて天気が良くなり、オロフレ山登山口のあるオロフレ峠の広場に8時10分に着いた時はほぼ快晴、しかし風が強い。



オロフレ峠・道路史碑



わたしの後から三重ナンバーの車が登ってきた。年配のご夫婦で、登山の支度をはじめたので「オロフレ山に登るのですか？」と声をかけたら「登れたら登るが、私の目的は花です！」と一喝された。あまりの断定的な激しい口調に返す言葉も無く「そうですか」とひとこと言って引き下がった。私が山に登る一つの目的も花を撮ることだが、あれほど花に固執しなくてもいいのになと思った。



- ・ 8時半に登り始めた。天気は強風快晴だが日差しがあるのでさほど寒さは感じない。登り始めるとすぐ道端で花々が迎えてくれた。オオバタチツボスミレとチングルマだ。オオバタチツボスミレは東北から北海道にしか見られない。



オオバタチツボスミレ



登山口

・しばらく登るとめざすオロフレ山が目の前にドンと現れそれに続く尾根筋が一望できた。ここから一度ドーンと下ってから登り直し、左へ回り込んで山頂を目指す。



道端にイワカガミが咲いている。
北海道でイワカガミを見るのは珍しいな。



シラネアオイ、エンレイソウ、ノウゴウイチゴ、
タニウツギ、ウコンウツギなど花を楽しみながら
のんびり歩き、ケルンの広場を通過してから急坂
に取り掛かる。山頂まで約1時間だ。



- ・エゾカラマツ、ハクサンチドリ、チシマフウロ、ヨツバシオガマ等が咲き乱れる道は急坂の疲れを忘れさせてくれ、10時半に山頂に着いた。



- ・天気は快晴だが風が強い。西の方角は良く晴れ、足元に洞爺湖、その向こうに有珠山やウィンザーホテルがはっきり眺められる。しかし目を東側に転じると雲が湧いていて視界が悪い。くもの切れ目から明日登る予定のホロホロ山と徳舜瞥山が時々頭をのぞかせる。山頂に居合わせたご夫婦に写真を撮ってもらい、ご夫婦が下山した後は私一人になった。しばらく一人の山頂を楽しんでから下山したが、今日は天気が良いからか登山者が多く、続々と登ってくる。40人位の団体ともすれ違った。狭い山頂はかなり混雑するだろうな、早く登って良かった。12時過ぎに登山口に到着した。ここはオロフレ峠、広い駐車場で展望は素晴らしい。北側の雲は無くなり快晴の下で遠くに羊蹄山がすっきりと聳えて見える。

足元に洞爺湖、左に有珠山、正面の山頂にWホテル



広い駐車場



遠くに羊蹄山がすっきりと聳えて見える

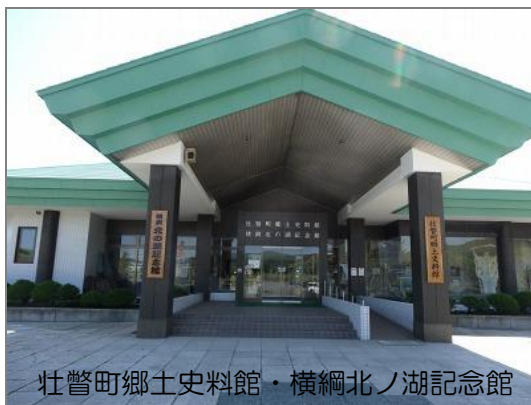
- ・さて今夜はどこに泊まろうか。とりあえずすぐ下の洞爺湖畔にある道の駅「そうべつ情報館」に下った。いつ来ても感じる無機質な面白くない駅だ。水道設備は無いし売店も無い。止まっている車も殆どいない。ただトイレはきれいだし、あした登ろうと思っているホロホロ山へ 1 時間くらいでゆけるので、今日はこの道の駅「そうべつ情報館」に泊まることにした。初めて泊まる駅だ。
- ・そうと決まれば、快晴だしまだ 1 時過ぎで時間がたっぷりあるので洞爺湖へ遊びに行くか。湖畔に行ったがこれといって遊ぶような所も無い。湖畔で湖を眺めながらしばらくのんびりした。



- ・有珠山、昭和新山へ向かった。以前来た時と同じように真っ青な空に昭和新山が赤茶色の異様な形で聳えている。以前に来て有珠山に登っているので、駐車場が有料だということでもあり、今回は車の窓から眺めて引き返した。



- ・ここはあの大力士「北ノ湖」の故郷である。「壮瞥町郷土史料館・横綱北ノ湖記念館」なる立派な建物が建っている。寄ってみたが入場有料なので敢えて入る気も無く、前で挨拶して失礼した。



その隣に日帰り温泉「ゆうあいの家」があるのでそこでゆっくりと風呂に入り道の駅に戻った。

天気は良いのだが風が冷たく強いので寒い。道の駅は 5 時 30 分で閉館し止まっている車は数台で寂しい駅になった。隣には札幌ナンバーのご夫婦が止まっている。食事の後ご夫婦としばらく歓談し 8 時前に寝た。

- ・明日はホロホロ山・徳舜瞥山に登る予定。天気は良いし、あんなに強かった風もすっかりおさまった。明日は大いに期待できるぞ！ おやすみ。